

陽光

17

yoko 2023.6



4/2開催花まつり会場マップ

住職コラム

兄との思い出

17

私

には兄が二人いて二番目の兄は年が一つしか離れてい

なかったのですが、小学生の頃はそれ兄にくつつくように遊んでいました。

東横線の妙蓮寺という駅に大きなプールがあって、夏休みになるとよく二人で電車に乗って遊びに行きました。

夕方までプールではしゃいだ後は、商店街のお肉屋さんに寄り、兄はコロッケやフランクフルトをいつも私に買ってくれました。

帰りの電車の窓から吹き込む生あたたかな風は、プールで冷

えた体に心地よく、私は兄の肩にもたれすぐ寝に落ちました。家に帰れば食卓にはあたたかなご飯が並んでいて、買い食いしてもなお、お皿をかじるように平らげていました。

そして、洗濯したての肌触りの良いタオルケットに包まれ、二人仲良く寝についていきました。

大人になった今でもこの事を鮮明に覚えていて、浮き輪を持って街中ではしゃいでいる子ども達を微笑ましく見てはよく思い出します。

合掌



大本山永平寺直末
曹洞宗圓明山陽光院

〒221-0851 神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢中町11-9
☎045-322-0565 ☎045-322-1315
✉sotozen@yokoin.org web https://yokoin.org

令和4年度護持会収支報告

令和4年 護持会収支計算書 自令和4年4月1日至令和5年3月31日

収入の部

科目	決算額
①護持会収入	3,695,221
→護持会費	3,695,200
→雑収入	21
当期収入合計	3,695,221
前年度繰越金	3,191,918
収入の部合計	6,887,139

支出の部

科目	決算額
①護持会運営費	3,764,797
→清掃整備費	2,382,860
→地代家賃（駐車場）	726,000
→通信費	222,562
→宗費・仏教会費	419,000
→寺務費	14,375
当期支出合計	3,764,797
当期剰余金	-69,576
次年度繰越金	3,122,342
支出の部合計	6,887,139

檀信徒の皆様よりお預かり致しました「令和4年度護持会費収支報告」です。今年度も何卒お納め頂きますようお願い申し上げます。

棚経

自宅でのお盆供養



7月13日(木)
～15日(土)
ご自宅で懇ろな盆供養を行う棚経は、新盆の希望者を中心に伺い致します。新盆以外の方でご要望の方はご連絡下さい。

施食会

お盆の合同供養祭



法要の様子



法話者：宇野全智師

毎年恒例の供養祭施食会を営みます。申込用紙またはホームページよりお申込み下さい。ユーチューブでの中継も致しますので、ご自宅でも法話や法要の様子がご覧いただけます。

お盆の合同供養祭「施食会」
7月10日(月) 13時……法話
14時……法要

その他お知らせ

- **本堂でのお葬式**
本堂でお葬式をお営む事が出来ます
- **生前戒名授与式**
生前に戒名をお授けする式を営めます。資料も送付致します
- **永代供養墓ハナミツキの碑**
特に跡継ぎにお困りの方向けです
- **一般墓地の分譲**
家族でつなぐ一般的なお墓の分譲もしております
- **位牌・仏壇供養**
位牌のお預かりや、開眼閉眼等を致します。ご相談下さい。
- **塔婆のお焚き上げ**
古くなった塔婆をお焚き上げします
- **坐禅会・お寺ヨガ**
月に一度開催。ぜひご参加下さい
- **お寺おやつクラブ**
お供え物のお下がりを生活難の家庭に寄付する活動を継続中です

護持会費改定のお知らせ

陽光院に墓地をお持ちの方の護持会費を令和六年度より改定させて頂く事が役員会にて決定致しました。
樹木の剪定・伐採、ゴミの収集費用の高騰等により、三期連続で護持会の赤字運営が続いており、この度護持会費の一部値上げを決定させて頂きました。昭和期より墓地をお持ちの護持会費九千円の方を対象に、三千円値上げの一万二千円へと変更させて頂きます。何卒ご了承下さい。

お墓・葬儀の相談



お墓の跡継ぎご不在の際の相談や、葬儀の事前相談などが増えていきます。昔のように死を事前に考えることはタブーではありません。どんな些細な事でもご相談下さい。

十六世寺族本葬儀

十六世寺族 西山幸子儀本葬儀
6月29日(木) 14時～
先代寺族(御令室)西山幸子様が令和五年五月十九日にご逝去なされました。密葬は去る五月二十五日に営み、本葬儀を右日時に挙行致します。車でのご来場は出来ませんので、ご焼香頂ける方は公共交通機関などをご利用になり御来山下下さい。

初めてのお盆講座



6月24日(土)
14時～15時半
伝統的なお盆の風習を講義スタイルでお伝えする講座を開催致します。予約制ですので、電話やホームページからお申込み下さい。



第10回

仏事を 知る

もし、積立がある程度を超えてなければ思い切って解約される事をお薦め致します。次世代の方の負担は、思惑を外れかなり大きくなるからです。しかし、葬儀は本来子どもが出すものです。費用を気にせず立派な葬儀を希望する方はこちらがひとつの選択肢になります。

② 自社斎場を持つ中堅・街の葬儀社

二つ目の中堅葬儀社は、小さな自社斎場施設を持つ葬儀社となります。ただし、このクラスの葬儀社は過渡期で、その斎場施設と費用、また対応はピンからキリで、施設と費用が見合わない葬儀社も多くあります。

最近では、コンビニエンスストア等の跡地を居抜いて作られた斎場などもあり、小さいながらも便利にそして綺麗に出来ており対応も良い所が多いです。費用も比較的抑えめに設定されています。しかし、敷地はあまり大きくなく、いわゆる格式高い葬儀や会葬者が多い葬儀には向いてはおりませんが、アットホームな葬儀を希望する方はこちらがひとつの選択肢です。

③ 自社斎場を持たない個人経営の葬儀社

二つ目の自社斎場を持たない個人運営の葬儀社は、斎場を持つていないため、非常にフットワークが軽く、無理が聞き、地域の大小様々な貸し斎場や寺院本堂で行う事得意とします。費用も概ね安価で、心あたたかな対応をしてくれる所も多いです。何も分からないところから丁寧に葬儀を組み立てていきたい方はこちらが一つの選択肢となります。しかし、それがこういった葬儀社が分からず、これらを利用する方のほとんどは紹介という形で行われていきますので、気になる

お葬式と葬儀社

現代ではお葬式を行う際、葬儀社の協力がかかせません。ひと昔前の葬儀は、葬儀社は仏具の貸出程度で、あとは近所の方や会社の方など多くの手を借りて行っていたものなので、葬儀社不在でも勿論出来ますが、人手の問題や、馴染みのない諸手続き、専門制の高いものもある故、現代では葬儀社無しで葬儀を行う事は中々難しいものです。

現代ではもはや葬儀の準備と進行は葬儀社が仕切り、葬儀の良し悪しは葬儀社に掛かっているともいえなくはありません。しかしながら、葬儀社の選定には時間もなかつたり、知識がないためよく分からない故、行き当たりばつたりになることが多いのも事実です。ここでは、葬儀社に接する機会の多い「僧侶」を代表し、住職が葬儀社を選ぶヒントをお伝え致します。

葬儀社の種類

まず、葬儀社は大きく大手、中堅、個人経営の三種類に分ける事が出来ます。それぞれが長所短所を持ち合わせ、どのような葬儀を行いたいかで、依頼する所が変わります。

① 大手葬儀社

大手葬儀社とはCMなどにも流れている葬儀社でほぼ間違いなく、大きな自社斎場施設と互助会制度を持っています。立地も良い豪華な施設を構え、数百人規模の葬儀も対応出来、従業員の教育も行き届いており、非常に格式高い葬儀を行うことが可能です。しかしながら、家族親族程度の参列だけでも費用は二百万を超えることも多いです。自分のお葬式は自分でと互助会に入っている方も多いと思いますが、

方はお寺に聞いて下さい。ただし、他の葬儀社が経営する斎場利用は出来ず、斎場がある程度限定されるのは注意です。

小さなお葬式などの葬儀社仲介業者

CMを見ない日が無い、葬儀社仲介ポータル業者は、そこに登録をしている地域の葬儀社を紹介してくれます。自宅の最寄りの葬儀社を多数紹介してくれるので便利ですが、今一つの葬儀社も多く、また社間での仲介手数料も高く、万が一外れを引いてしまうと、見る人が見れば手を抜かれているとんでも葬儀になる傾向もあり、コンプライアンスの問題でも度々ニュースに取り上げられていますので少々注意が必要です。

病院からの紹介の葬儀社

病院からの紹介業者は、個人的にはお薦めはしません。勿論全てではありませんが、費用も見合わない事が多く、昔ながらの営業スタイルからか葬儀社の言いなりになってしまう葬儀も散見されます。葬儀社が決まっていな段階でその日を迎えてしまったら、故人さまの病院からの搬送だけお願いし、後から他を探すことも一考しましょう。

色々と言いましたが、葬儀とは決して高い安いの価値観ではなく、亡き人を大切に送る事が重要な事です。結局は担当者・スタッフが心を込めてくださっていれば場所はどこでも、良い葬儀になると言えます。また、葬儀社とは故人を送る手助けをしてくれる存在だけで、喪家がその中心にいます。何でも葬儀社任せや、客のような感覚でいてはどこに頼んでも良い葬儀は出来ないとも感じます。

仏の教えや禅語は悟りの境涯を伝えているもの。しかし、深遠な仏の道を求めなくとも、その言葉を自らの生活に引き寄せることで、大切なものに気付かされたり、豊かな人生を過ごすヒントにもつながります。



連載 仏教の話 第14話

天上天下唯我独尊

てんじょうてんげゆいがどくそん

今ではあまり見なくなった暴走族。その暴走族が着ている羽織の背中の刺繍に「天上天下唯我独尊」と書かれていたのをドラマや漫画などでも目にした方も多いではないでしょうか。実はこの言葉の出どころは仏教で、なんと仏教の創始者お釈迦さまが仰った言葉なのです。なぜだかお釈迦さまの言葉を暴走族が好んで使っていた光景が繰り広げられていました。確かに字面だけを短絡的に見る

と、「この世界で俺が一番強い！」という言葉となりそうですが、お釈迦さまがそんなことを仰る訳がありません。この言葉の本当の意味は別にあります。

諸説はありますが「自分が尊い」と同じように全ての存在が尊い」というような意味であると言われるています。私たちは決して思い通りにならない苦しみの深い人間世界に生きています。その世界に時に歯を食いしばりながら、時に苦しみから抜け出す方策を考えながら誰しもがもがいて暮らしています。時にはこの世界より自らの手で離脱してしまう人もいます。しかし、多くの人はこの苦しみの世界に抗い

希望をもって生きていきます。

そう考えるとどうでしょう。社会的な見方やものさしなど関係なくこの世界に生きていく誰しもが、そして自分が、尊い存在であると感じるのではないのでしょうか。それが天上天下唯我独尊「自分が尊い」と同じように全ての存在が尊い」という意味なのです。

お釈迦さまはこの天上天下唯我独尊の言葉通り、身分の上下を激しく決めるカースト制度全盛であった当時のインドにおいて全ての人に平等に接していました。それはどんな身分や考えの人でも「受け入れてあげる」という思いあがった考えではなく、どんな人でも尊敬をして接していたのでした。ど

んな人も苦しみ悲しみに出会わなければならぬ者として尊い命を生きていくと見ていたのでした。お釈迦さま自身が他者を尊敬する人だったからこそ、多くの人からの尊敬を受け、また仏教という教えが現在にも受け継がれ残っている訳なのです。

敵対するものも、どんな身分の人も、全ての生きとし生ける動物も植物も敬った。こういう生き方をしている人は当時にも珍しく、だからこそ、手を合わせるお釈迦さまの姿に皆、手を合わせたのでしよう。尊敬していた人が尊敬された。それがお釈迦さまであり、「天上天下唯我独尊」の生き方だったのでした。

は大変難しいものです。生半可な気もちでは、見返りを求める心が生まれ、調子に乗られたと憤ることもあるでしょう。特に弱肉強食の経済社会に生きる私たちにとっては食うか食われるかの時もあり、この考えでは死活問題になる時もあるでしょう。しかし、強い信念を持ってこの思想を実践していけば、そこには穏やかな暮らしと大勢の友人、そして遠回りにも見えなかった成功が集まる事でしょう。

そうやって生きてきた人がいること、そうやって生きようとしている人がいること、私はそれ自体に手を合わさざるを得ません。

この天上天下唯我独尊の暮らし

